

CASBEE-建築(新築)2024年版
 扶養化学工業㈱ 京都第二工場 超高度ビルコイダシリハ製造設備 (VTR)建設工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2024年版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
◎ 建築物の環境品質								2.4
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1	室内騒音レベル	-	-					
1.2	遮音							
1	開口部遮音性能	-	-					
2	界壁遮音性能	-	-					
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)							
4	界床遮音性能(重量衝撃源)							
1.3	吸音	-	-					
2 温熱環境								
2.1	室温制御							
1	室温	-	-					
2	外皮性能	-	-					
3	ゾーン別制御性	-	-					
2.2	湿度制御	-	-					
2.3	空調方式	-	-					
3 光・視環境								
3.1	昼光利用							
1	昼光率	-	-					
2	方位別開口							
3	昼光利用設備							
3.2	グレア対策							
1	昼光制御	-	-					
3.3	照度	-	-					
3.4	照明制御	-	-					
4 空気質環境								
4.1	発生源対策							
1	化学汚染物質	-	-					
4.2	換気							
1	換気量	-	-					
2	自然換気性能	-	-					
3	取り入れ外気への配慮	-	-					
4.3	運用管理							
1	CO ₂ の監視	-	-					
2	喫煙の制御	-	-					
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1	機能性・使いやすさ							
1	広さ・収納性	-	-					
2	高度情報通信設備対応	-	-					
3	バリアフリー計画	-	-					
1.2	心理性・快適性							
1	広さ感・景観	-	-					
2	リフレッシュスペース	-	-					
3	内装計画	-	-					
1.3	維持管理							
1	維持管理に配慮した設計	-	-					
2	維持管理用機能の確保	-	-					
2 耐用性・信頼性								
2.1	耐震・免震・制震・制振							
1	耐震性(建物のこわれにくさ)							
2	免震・制震・制振性能							
2.2	部品・部材の耐用年数							
1	躯体材料の耐用年数							
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔							
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	耐用年数の長い内装仕上げ材を使用						
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	耐用年数が短くなる系統にガルバリウム・SUSダクトを使用						
5	空調・給排水配管の更新必要間隔							
6	主要設備機器の更新必要間隔							
2.4	信頼性							
1	空調・換気設備							
2	給排水・衛生設備							
3	電気設備							
4	機械・配管支持方法							
5	通信・情報設備							

3	対応性・更新性		2.7	0.50		-	2.7
	3.1 空間のゆとり		2.2	0.30		-	
	1 階高のゆとり	—	1.0	0.60		-	
	2 空間の形状・自由さ	0.1 ≤ 壁長さ比率 < 0.3	4.0	0.40		-	
	3.2 荷重のゆとり	—	3.0	0.30		-	
	3.3 設備の更新性		3.0	0.40		-	
	1 空調配管の更新性	—	3.0	0.20		-	
	2 給排水管の更新性	—	3.0	0.20		-	
	3 電気配線の更新性	—	3.0	0.10		-	
	4 通信配線の更新性	—	3.0	0.10		-	
	5 設備機器の更新性	—	3.0	0.20		-	
	6 バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20		-	
Q3	室外環境(敷地内)		—	0.57		-	2.1
1	生物環境の保全と創出	—	1.0	0.30		-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮	—	3.0	0.40		-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		2.0	0.30		-	2.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	—	2.0	0.50		-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	—	2.0	0.50		-	
LR	建築物の環境負荷低減性		—	—		-	3.0
LR1	エネルギー		—	0.40		-	2.8
1	建物外皮の熱負荷抑制	—	-	-		-	-
2	自然エネルギー利用(直接利用)	—	3.0	0.13		-	3.0
3	設備システムの高効率化		2.9	0.63		-	2.9
	集合住宅以外の評価		2.9	-		-	
	集合住宅の評価					-	
4	効率的運用に向けた取組み		2.6	0.25		-	2.6
	集合住宅以外の評価		2.6	1.00		-	
	4.1 モニタリング	—	2.0	0.40		-	
	4.2 運用管理体制	—	3.0	0.40		-	
	4.3 非化石エネルギーの導入の拡大	—	3.0	0.10		-	
	4.4 コミュニケーションの推進	—	3.0	0.10		-	
	集合住宅の評価					-	
	4.1 モニタリング	—				-	
	4.2 運用管理体制	—				-	
LR2	資源・マテリアル		—	0.30		-	3.2
1	水資源保護		3.4	0.20		-	3.4
	1.1 節水	主要水栓等に加えて省水型機器を過半数以上に採用	4.0	0.40		-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60		-	
	1 雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70		-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30		-	
2	非再生性資源の使用量削減		3.0	0.60		-	3.0
	2.1 材料使用量の削減	—	3.0	0.11		-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.22		-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.22		-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	—	1.0	0.22		-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	—	-	-		-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上材の分離が容易、OAフロアを採用	5.0	0.22		-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.7	0.20		-	3.7
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	—	3.0	0.30		-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		4.0	0.70		-	
	1 消火剤	—	-	-		-	
	2 発泡剤(断熱材等)	発泡剤を用いた断熱材の使用なし	5.0	0.50		-	
	3 冷媒	—	3.0	0.50		-	
LR3	敷地外環境		—	0.30		-	3.2
1	地球温暖化への配慮	高効率な設備機器の採用によるWLC排出率の削減	4.0	0.33		-	4.0
2	地域環境への配慮		2.8	0.33		-	2.8
	2.1 大気汚染防止	燃焼機器の設置無し	5.0	0.25		-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	—	2.0	0.50		-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.2	0.25		-	
	1 雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25		-	
	2 汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25		-	
	3 交通負荷抑制	—	2.0	0.25		-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	—	1.0	0.25		-	
3	周辺環境への配慮		3.0	0.33		-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
	1 騒音	—	3.0	1.00		-	
	2 振動	—	-	-		-	
	3 悪臭	—	-	-		-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40		-	
	1 風害の抑制	—	3.0	0.70		-	
	2 砂塵の抑制	—				-	
	3 日照障害の抑制	—	3.0	0.30		-	
	3.3 光害の抑制		3.0	0.20		-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	—	3.0	0.70		-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30		-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	1.0	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	2.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	3.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用(直接利用)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4.1.4 コミュニケーションの推進	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	2.0	-	-	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	3.0	-	1.0	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	1.0	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0	-	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標	
Q1 室内環境	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 - 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -
3.1.1 昼光率	昼光率 -
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 -
Q2 サービス性能	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース - /人 病床 - /床 シングル - ツイン -
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 - VA/m ²
1.2.1 広さ感・景観	天井高 - m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース - レストスペース -
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 - 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 - 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 20 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 - 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 - m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 <0.3
3.2 荷重のゆとり	床荷重 - N/m ²
Q3 室外環境(敷地内)	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 0% 建物緑化指数 0%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 50% 水平投影面積率 0% 地表面対策面積率 0% 舗装面積率 50%
LR1 エネルギー	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI _m - 断熱等性能等級 対象外 相当
2 自然エネルギー利用(直接利用)	影響範囲の割合 0.0% 採光を満たす教室数 - 採光を満たす住戸数 - 通風を満たす教室数 - 通風を満たす住戸数 - 太陽光 22.1kW 太陽熱等 0kW 蓄電池 0kWh
3 設備システムの高効率化 非住宅部分 集合住宅	BEI/BEI _m 再エネ有 0.19 無 0.79 オフサイト再エネ有 - ○○GJ/年 一次エネルギー削減率 再エネ有 ##### 無 #####
LR2 資源・マテリアル	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 -
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 -
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
LR3 敷地外環境	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 174% 隣棟間隔指標Rw 0.40 地表面対策面積率 0.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0% 見付面積Sb 4761m ² 卓越風向と直交する最大敷地幅Wc 191.309 m 基準高さHb 14.26 m 緑地 m ² 水面 m ² 保水性対策面 m ² 高反射対策面 m ² 再帰性反射対策面 m ²